

一期一会

自律 目標に向かって自分自身を律する
感謝 思いやりや感謝の気持ちをもつ
貢献 将来社会に貢献する態度を養う

2021.11.29 第31号



体育のソフトボールが終わり、持久走になりました。子どもたちの様子は？と心配するほど、どの学年もソフトボールに夢中になっていました。

さて、話を聞くと持久走もまんざらでもないようで、駅伝・ロードレース大会に向けて頑張っているようです。駅伝・ロードレース大会は12月17日(金)の予定(予備日20日)です。事故のないようにしっかり練習をして当日を迎えたいと思います。

保護者の皆さまには競技役員としてのお手伝いもお願いすることになりそうです。子どもたちへの応援とともにご協力よろしくお願ひいたします。

定期テストが終わって1週間が過ぎました。テストも返却され、成績が待ち遠しいことだろうと思います。学ぶことは学生の特権ではありません。人間は一生学び続ける動物であり、歳をとってからの学びも若い頃と同じように感動や喜びがあります。

《なぜ勉強しなければならないのか》

平成29年の大阪大学前期の英語の入試問題Ⅲで次のような問題が出題されました。

「インターネットのQ&Aサイトに中学2年生から次のような相談がありました。

私は、はっきり言って勉強が嫌いです。特に嫌いなのが英語と数学です。一生外国に行くつもりなんかないし、日本では日本語が使えれば生きていけるのに、なぜ使う必要もない外国の言葉を、こんなに一生懸命勉強するのかわかりません。数学もそうです。買い物をするのに方程式や図形はいりません。なぜxやyを長々と書きまくるのか、全然理解できません。他の科目もいっぱいおぼえさせられるので嫌いです。(でも体育や音楽は楽しいから好きです)

この悩みをお父さんに言っても、ただ勉強しなさいと言うだけです。でも、正月におじいさんに聞いたところ、お父さんも中学の時は全然勉強しなかったそうです。なぜ私は勉強しなければならないのでしょうか？

さて、あなたならこの相談者にどのようなアドバイスをしますか。70字程度の英語で相談者へのアドバイスを書きなさい。」

さあ、どう答えましょうか？

この中学生に同調して勉強しなくていいと答えてしまったら、アドバイスになっていないのでおそらく0点でしょう。

英語に関しては、一生外国に行く気がなくても、このグローバル社会においては外国の方と接する機会が少なからずあるということ。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、外国の方と接する機会が今以上に多くなったこと。海外に行かなくても、やはり英語を勉強することは、グローバルな世界で生きていく中ではとても大切なことで、今の生活をより



豊かにしてくれることが予想されること。

数学については、確かに方程式や図形が分からなくても普段の生活に困りません。しかし、数学は筋道立てて考える論理的な学問です。論理的思考力、計算力などを身に付けることができます。暗算（計算）は遅いより速い方が生活する上で便利なこともあるでしょうし、議論の場で相手を納得・理解させるためには筋道を立てて話す力が必要です。数学は自然科学（物理や化学など）の研究には欠かせない道具です。その道具が使いこなせないと今のような科学の発展はなかったことでしょう。

大学側の意図として、70字程度でまとめられるだけの英文力を問うことはもちろんですが、学ぶことに対して受験生がどんな考えをもっているかも問うているようです。大学は学ぶところであるというメッセージかもしれませんね。

しなきゃいけない、のではない

みやざき中央新聞 2016.5.30 編集部 増田 翔子

「なんで勉強しななきゃいけないの？」きっと皆さんも一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。坪田先生が教える、「力を伸ばすポイント」の中から2つをご紹介します。

まずは「メンタル」、つまり気持ちです。たとえば、幅30cm・長さ5mの鉄板が床に置いてあるとします。私たちはその上を簡単に歩くことができます。しかし、その鉄板が高さ200mの2つのビルに渡されていたとしたら、同じように歩けるでしょうか？やることは変わらないのに歩けない気がしませんか？なぜなら「落ちたらどうしよう」と考えてしまうからです。

このように、一瞬でも失敗のイメージや苦手意識をもってしまうと、その力は実力以下になってしまいます。「大事なのは『絶対できる』と信じ込むことだ」と坪田先生は言います。

もう1つのポイントは「戦術」です。

皆さんは「花をかいてください」と言われたらどんな花をかきますか？

ひまわりのような花を描く人、チューリップのような花を描く人、花が1本だったり3本だったり、また地面から生えていたり茎や葉がついていたり……。もしかしたら漢字で「花」と書く人がいるかもしれません。

指示があまりにもシンプルだと、このように結果がバラバラになってしまいます。具体的な描き方の説明、つまり「戦術」が伝わっていないのです。あやふやな指示は、指示された側に「どうやればいいの？」という不安を与えてしまいます。

さて、あらためて私たちはなぜ勉強をしなくてはいけないのでしょうか。あるドラマではこう答えていました。「勉強はしななきゃいけないものではありません。したい、と思うものです。知らないもの、『不思議だな』と思うものに出合ったとき、もっと知りたいと思えるから人間なんです」と。

「勉強をしたい」と思えるためには、サポートしてあげる人の存在や言葉がけが何よりも大事だと思います。これは子どもだけでなく大人にもいえそうな気がします。支えてくれる人の力があれば、秘められている大きな可能性が開いていくかもしれません。



『ビリギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』の著者である坪田信貴先生